
悪魔にキス 2

彰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪魔にキス2

【ZPDF】

N1015E

【作者名】

彰

【あらすじ】

バイト帰りの青年の話其処で奇妙な出来事に出合ってしまうひょんな事から悪魔に出会ってしまう

惡魔（前書き）

乾燥・感想下さい

彼女の顔を見た瞬間

僕の意識が少し遠のいた気がした

きっとコンクリに尻をぶつけたんじゃなく
自分の頭をぶつけ、それから勝手な夢の世界に自分が来てしまった
のだと思った

「お、降ろして下さい」そう心の中で言い聞かせながらも焦りながら僕は彼女に訴えた

彼女は少し不貞腐れて『命の恩人に最初に放つ言葉か?』と背中の蝙蝠の羽を靡かせて

僕を睨んだ「え!?'見つめた緑の瞳に吸い込まれそうになつた
僕は近くの公園に引きずられるように降ろされた

其処で僕を突き落とすように落とした彼女も足を置いた
僕は公園に降りた瞬間、自分の頬自分で抓つた

これは夢ではないと認識した

そんな僕を見ていた彼女は僕に珍しそうに言葉を掛けてきた

『人間は空を飛べないのか?』人間? 尻もちを着いてる僕を見下すように見ている彼女の顔を見た後ろで寂しく外灯だけが光っている

その外灯の前にはさつきまで風に靡いていた蝙蝠の様な羽がピンと張つていた

その瞬間、『おい、尋間に答える』彼女の口元から言葉が発せられた
僕はビビリながらも「君は・・・何者なの?」と答えた
次の瞬間、彼女は啖呵を切つたように僕に近づいてくる
僕はコンクリに掌をついて彼女に背を向けて急いで逃げ出した

来る後ろを振り返るともう既に遅かった

飛んでいる彼女に襟足を掴まれ殺されると思った瞬間

『私は危害は加えない』と僕に低い声で小さく言った

僕は我に返り心を落ち着かせながらも「わ、分かったから・・・手をお放し下さい」

と挙るように頼んだ・・・そんな僕を見てゆっくり僕から手を放し『私は魔界からこの世に降り立つた悪魔だ人間の欲望を餌とする生物だ』

と僕に話始めた僕は最初この人は何を言つて理解できずにいた

けれど、証拠は幾つもあった

まず、彼女は空を飛んで僕を助けた

そして、『人間は空を飛べないのか?』と言つ彼女の発言

僕は次の瞬間馬鹿でも走り出し逃げ出した

結局、あえ無く捕獲された「あの一家に帰してください」

僕は泣く泣く僕の腕を掴んでいる彼女に頼んだ

『いいだろう』彼女は僕の背中を抱き上げ夜風にふわっと羽を靡かせ抵抗している僕を宙に浮かせた見上げる夜景はとっても奇麗で何時落とされても可笑しくない僕は

そのまま帰れなくなつたらこれが最期だと考えていた

そんな僕の気もお構いなく『お前の家は何処だ?』と飛んでいる彼女は僕に聞いてきた

近所の家を指して「其処です」と僕は答えた彼女は家の近くの外灯の付近に僕を下ろした

僕は頭を下げ逃げるようになにその場を後にした走つた瞬間腰に鈍痛が走つた

それでも逃げたこれ以上彼女に付き合つていたら確実に殺されるだろつ

後ろから『待て』の声がした振り向くと其処に遠ざかる彼女が居た良かつた追つてこない暫くして歩きだした僕は呼吸を落ち着かせながらあれは無かつたことにして

と何度も頭の中で言い聞かせた

そうただ単に事故にあつた其処で現実じやない悪夢を見たそんな事

を考えているうちに
家に着いた。ポストの中から鍵を取り出し家に入った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1015e/>

悪魔にキス2

2010年12月29日23時36分発行